

平成 28 年度 三重大学修学達成度評価 報告書（概要）

－三重大学生の 4 つの力に関するアンケート－

地域人材教育開発機構（高等教育創造開発センター）

教学 IR・教育評価開発部門・横矢 祥代

1. アンケートの概要

1.1 アンケート 1（春実施）

調査対象 平成 28 年度新入学生 1,353 名

調査方法 新入生が受講する授業等にて、アンケート用紙を学生に配付・回収した。

調査時期 平成 28 年 4 月～5 月

1.2 アンケート 2（秋実施）

調査対象 三重大学に在籍する学部生 6,083 名

調査方法 三重大学ウェブ調査システムを用いて実施した。

（一部の学科・学年において紙媒体での回答があった）

調査時期 平成 28 年 9 月



1.3 分析対象者数

分析対象者は表 1 の通りであった。回答率についてアンケート 1 は 97.5%、アンケート 2 は 73.7%であった。

表1 分析対象者数

		人文	教育	医	工	生物資源	合計		
アンケート (春) 1	1年生	253	211	200	406	249	1,319		
	2年生	257	210	200	391	246	1,304	4,487	
アンケート (秋) 2	3年生	223	202	126	387	234	1,172		
	4年生	206	197	135	366	216	1,120		
	5年生	146	197	115	260	150	868		
	6年生			5			5		
				18			18		

2. 「4つの力」の結果について



2.1 「感じる力」

感じる力の下位概念 ①感性、②共感、③倫理観、④モチベーション、⑤主体的学習力、⑥心身の健康に対する意識について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

①感性

「考えたことだけではなく、感じ取ったことも大事にしている」は、アンケート2（秋実施）の学年を通して選択率が90%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.1.1 感性(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春 全回答数 1,319件	1年生・秋 全回答数 1,304件	2年生 全回答数 1,172件	3年生 全回答数 1,120件	4年生 全回答数 868件	全学生 全回答数 4,487件
感じる力	①感性						
	相手が感じていることを同じように感じ取ることができる	53.0%	77.3%	75.5%	76.2%	78.0%	76.6%
	文章や作品などで表現をする際に、自らの感性を意識して行うことができる	39.7%	72.5%	74.6%	72.8%	78.0%	74.0%
	考えたことだけではなく、感じ取ったことも大切にしている	66.0%	92.1%	90.6%	90.4%	90.9%	90.8%
	学習の振り返りにおいて、獲得した知識だけではなく、感性の観点も意識することができる	23.4%	67.5%	67.3%	70.0%	74.7%	69.2%
	自らの感性がどのようなかを意識することができる	34.2%	65.3%	66.6%	71.1%	76.6%	69.0%

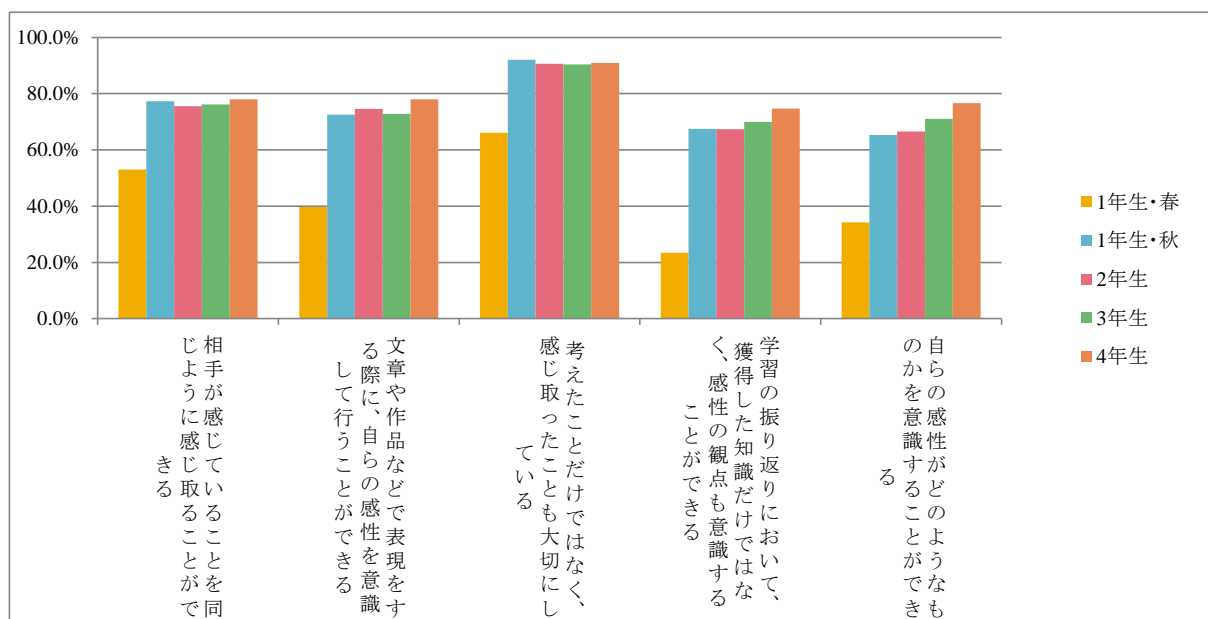


図2.1.1 感性(感じる力)の選択率(全学部生)

②共感

「他者がおかれている状況を想像しながら相手の話を受け止め、共感的態度を示すことができる」や「他者の考えをくみとり、他者が行動しやすいように支援を行う」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.1.2 共感(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
感じる力	②共感						
	他者がおかれている状況を想像しながら相手の話を受け止め、共感的態度を示すことができる	74.0%	89.3%	88.5%	86.9%	87.2%	88.0%
	他者の考えをくみとり、他者が行動しやすいように支援を行う	62.5%	85.7%	83.4%	83.6%	83.9%	84.0%
	自分の考え・意見との相違にかかわらず、他者の意見・考えがなぜそれに至ったかをその人の立場に立って理解することができる	43.2%	75.9%	78.4%	78.7%	79.4%	77.7%
	共感すべき対象や事柄が周囲にあるとき、それに敏感に気づくことができる	45.6%	70.5%	69.6%	71.6%	75.9%	71.3%
	社会の中で困っている人のことに思いをはせて、自分に関連づけて考えることができる	40.7%	68.9%	68.8%	67.9%	74.5%	69.5%

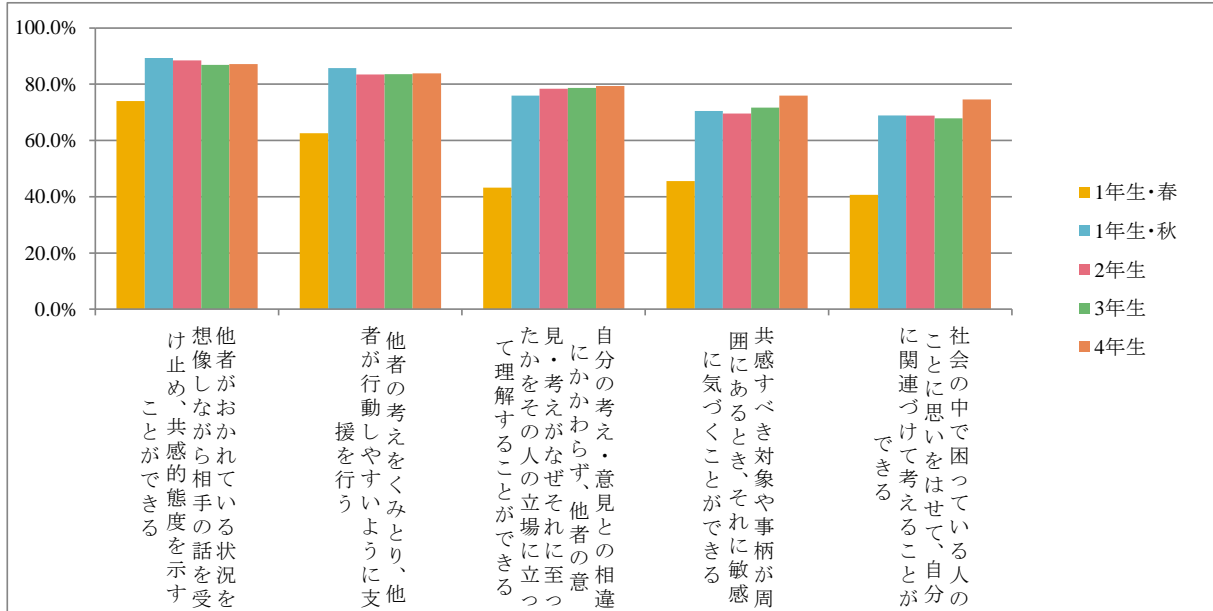


図2.1.2 共感(感じる力)の選択率(全学部生)

③倫理観

表2.1.3 倫理観(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
感じる力	③倫理観						
	自己の欲求だけでなく、倫理的な基準をふまえた判断や自己決定ができる	68.3%	83.5%	85.5%	83.3%	86.9%	84.5%
	自分勝手な判断ではなく、社会で決められたルール(ゴミの分別、交通ルールや駐車場の適切な利用など)を守っている	79.9%	91.0%	89.4%	87.7%	87.4%	88.8%
	専門領域における倫理的な判断ができる	24.0%	57.5%	66.4%	71.8%	79.1%	67.5%
	他者が行っている倫理に反する行動に注意することができる	31.7%	60.3%	59.4%	65.9%	69.2%	63.0%
	著作権に関する知識を持ち、それを守ることができる	39.4%	81.0%	81.7%	80.5%	82.5%	81.1%

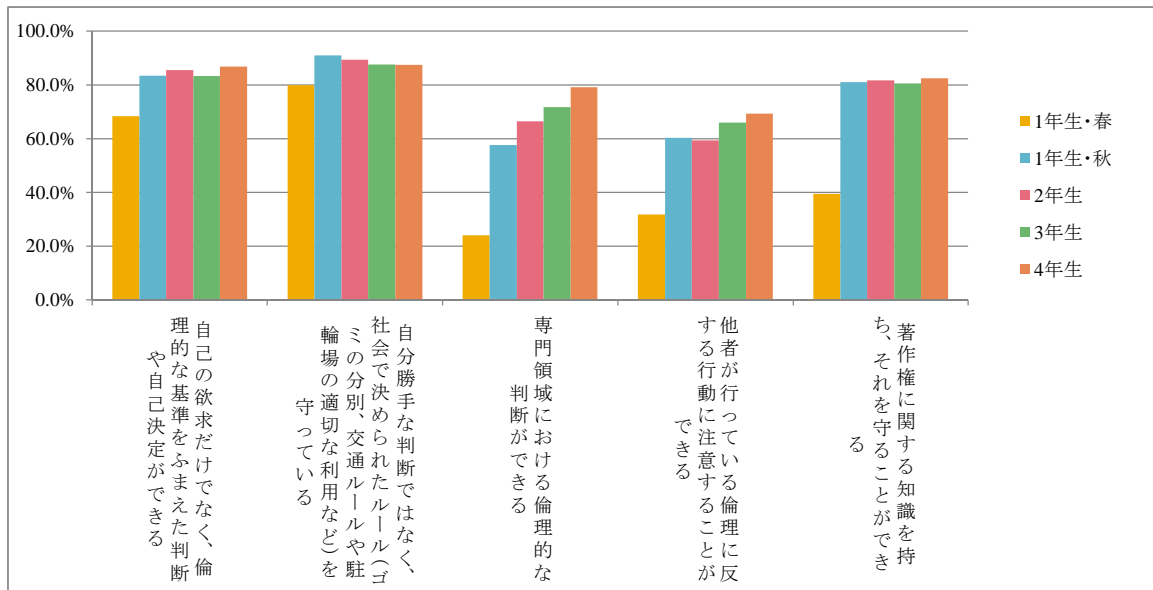


図2.1.3 倫理観(感じる力)の選択率(全学部生)

「自己の欲求だけでなく、倫理的な基準をふまえた判断や自己決定ができる」や「自分勝手な判断ではなく、社会で決められたルール（ゴミの分別、交通ルールや駐輪場の適切な利用など）を守っている」、
「著作権に関する知識を持ち、それを守ることができる」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。「専門領域における倫理的な判断ができる」については、学年進行によって選択率が高くなっている。倫理観に関する項目は全体的に選択率が高いが、「他者が行っている倫理に反する行動に注意することができる」については、選択率が低かった。

④モチベーション

学年間で比較すると、どの項目も4年生の選択率が高かった。「常に長期的目標・短期的目標を設定し、意識しながら大学生活を送っている」については、学年を通して選択率が低かった。

表2.1.4 モチベーション(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
感じる力	④モチベーション	全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
	与えられた課題の中でも意義や面白さを見つけてことができる	54.5%	73.6%	73.3%	75.4%	80.4%	75.2%
	常に長期的目標・短期的目標を設定し、意識しながら大学生活を送っている	33.2%	60.4%	56.4%	60.6%	66.6%	60.4%
	うまく進まなかったり、失敗したりした場合でも、目標達成のために辛抱強くやり続けることができる	54.1%	76.6%	73.1%	74.6%	80.0%	75.7%
	適度に自信をもって行動にとりくむことができる	47.8%	68.6%	69.3%	70.9%	72.1%	69.8%
	大学で学んだことや大学生活での経験を通して、やりたいことを持っている	58.2%	73.2%	70.6%	73.6%	80.8%	73.9%

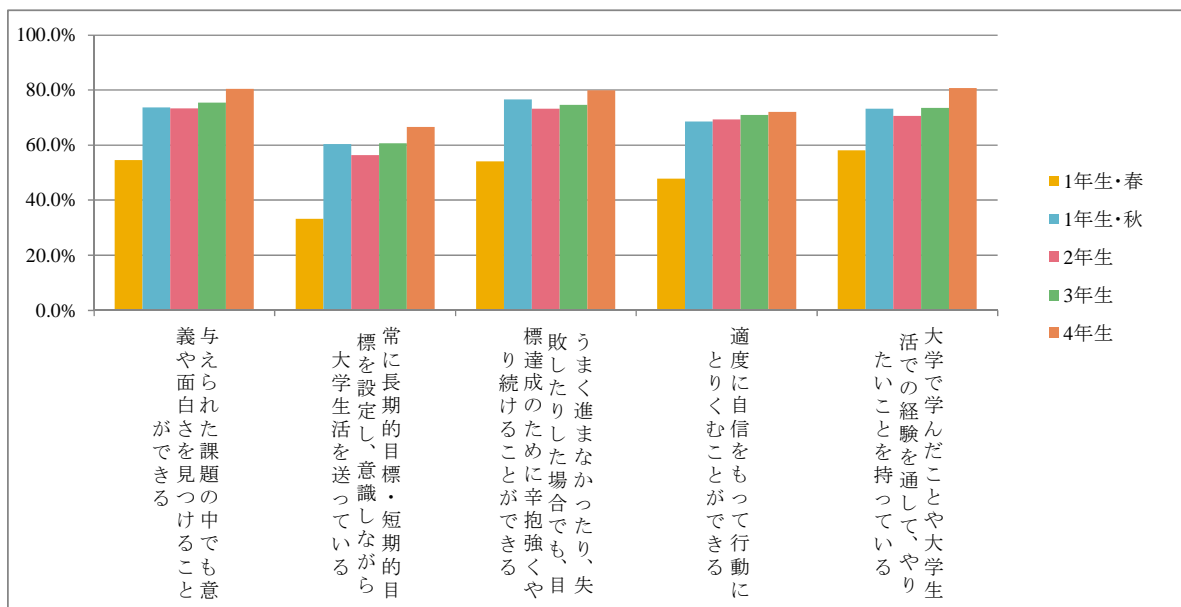


図2.1.4 モチベーション(感じる力)の選択率(全学部生)

⑤主体的学習力

全項目を通して、選択率が低かった。特に「e-portfolio などにより、学びの履歴を蓄積し、振り返り、活用できるようにしている」の選択率が低かった。「与えられたもの以外にも自分で調べたり学習を進めている」や「学習資源（図書館・教員・インターネット・講演会・学会・研究会への参加）の活用ができる」については、3年生や4年生の選択率が高かった。

表2.1.5 主体的学習力(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
感じる力	⑤主体的学習力	全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
	与えられたもの以外にも自分で調べたり学習を進めている	34.7%	54.8%	54.4%	67.8%	72.8%	61.4%
	締め切りなどを勘案して、計画的に学習を進めることができる	53.8%	67.6%	64.4%	65.2%	68.8%	66.2%
	誘惑に負けずに、学習すべき時間をきちんと自己決定して確保することができる	27.3%	49.8%	49.2%	53.9%	60.3%	52.6%
	e-portfolioなどにより、学びの履歴を蓄積し、振り返り、活用できるようにしている	7.5%	24.6%	26.7%	33.1%	37.2%	29.6%
	学習資源（図書館・教員・インターネット・講演会・学会・研究会への参加）の活用ができる	44.4%	74.1%	71.0%	78.4%	80.8%	75.5%

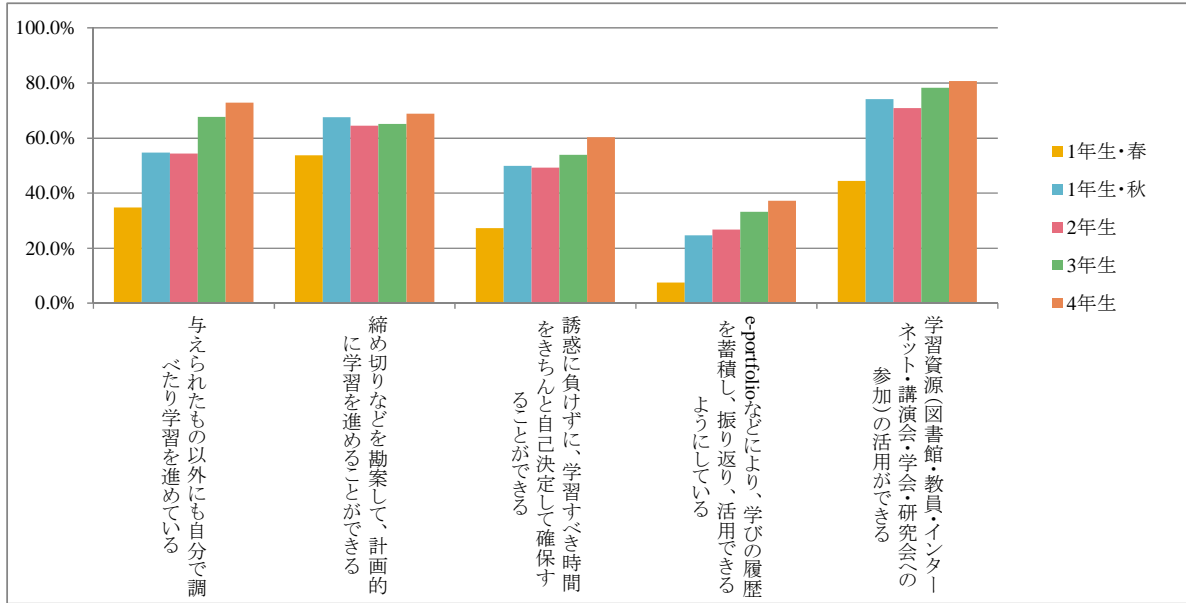


図2.1.5 主体的学習力(感じる力)の選択率(全学部生)

⑥心身の健康に対する意識

「早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活リズムが整っている」については、選択率が低く、50%程度しかなかった。他の項目では、1年生春の学生と1年生秋の学生の選択率の差が大きいが、この項目については、両者の差はあまり大きくなかった。

表2.1.6 心身の健康に対する意識(感じる力)の選択率(全学部生)

	1年生・春 全回答数 1,319件	1年生・秋 全回答数 1,304件	2年生 全回答数 1,172件	3年生 全回答数 1,120件	4年生 全回答数 868件	全学部生 全回答数 4,487件
⑥心身の健康に対する意識						
早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活リズムが整っている	50.6%	58.1%	52.0%	51.6%	55.8%	54.3%
感情の昂ぶりや落ち込みをコントロールすることができる	50.6%	71.4%	69.5%	69.6%	74.0%	70.7%
定期的に適度な運動を行っている	45.3%	67.9%	60.4%	60.4%	62.6%	62.9%
自分の物事の進め方に対するペースや感情、身体状態について把握できている	56.9%	83.1%	80.4%	79.1%	81.3%	80.8%
自分の無理ができる限界を知っている	49.4%	68.6%	69.5%	73.6%	75.6%	71.3%

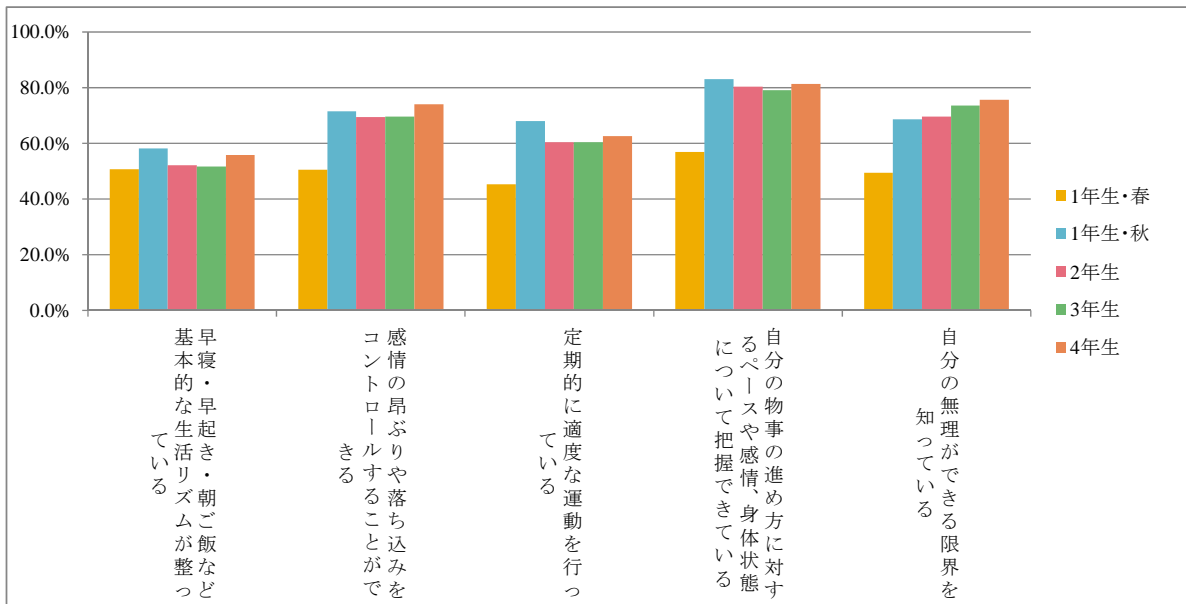


図2.1.6 心身の健康に対する意識(感じる力)の選択率(全学部生)



考える力の下位概念 ⑦幅広い教養、⑧専門知識・技術、⑨論理的思考力、⑩批判的思考力、⑪課題探求力、⑫問題解決力について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

⑦幅広い教養

「自分の専門と他の学問との関わりについて説明することができる」について、全学年を通して選択率が低かった。しかし、学年進行につれて選択率が高くなっている。

表2.2.1 幅広い教養(考える力)の選択率(全学部生)

考える力	⑦幅広い教養	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
考える力	学問に分野による優劣はなく、どの学問も重要であるという敬意を持っている	55.7%	72.2%	75.9%	77.6%	82.8%	76.4%
	自分の専門分野以外についても、興味関心を持って知識や技能を得ようとしている	61.9%	75.5%	75.4%	74.7%	77.4%	75.4%
	自分の専門と他の学問との関わりについて説明することができる	18.3%	43.9%	46.5%	55.8%	62.3%	51.0%
	社会の一員として必要とされる教養について知っていて、それを磨こうとしている	38.1%	75.4%	72.1%	74.3%	76.0%	74.1%
	ニュース・新聞などを使って時事問題についての関心を広げている	38.8%	61.9%	61.5%	63.7%	70.3%	63.7%

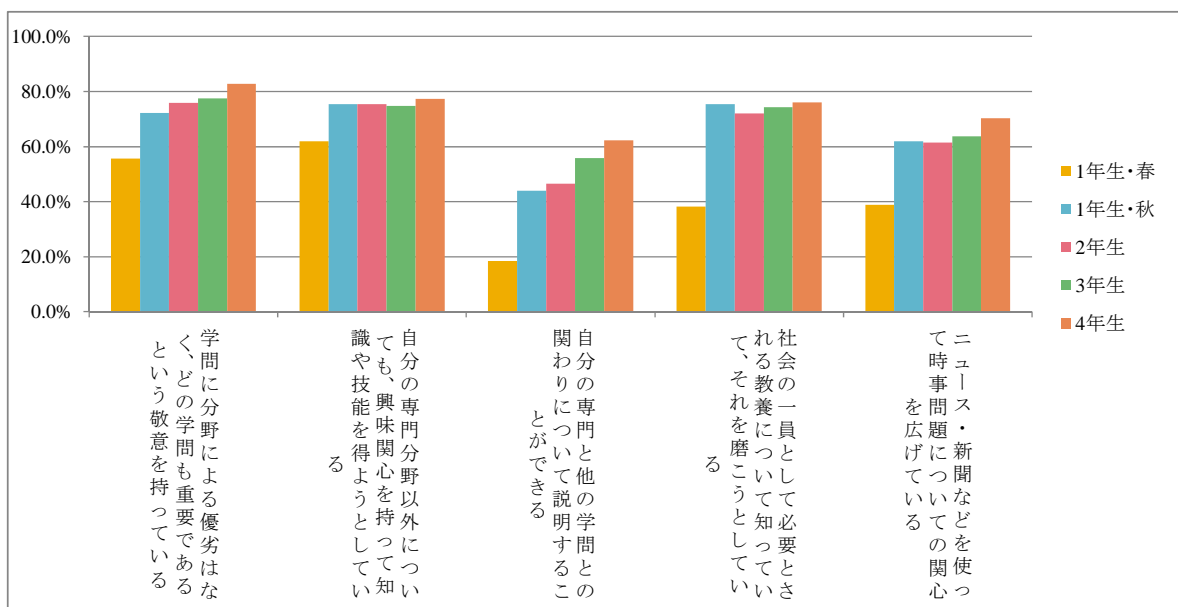


図2.2.1 幅広い教養(考える力)の選択率(全学部生)

⑧専門知識・技術

ほとんどの項目について、選択率が低かった。しかし、4年生の選択率は高く、他の学年と比較すると差が大きかった。

表2.2.2 専門知識・技術(考える力)の選択率(全学部生)

考える力	⑧専門知識・技術	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
考える力	授業を通して専門領域の基本的な概念やスキル、技能を習得した	24.7%	74.6%	83.2%	82.2%	85.3%	80.7%
	授業以外で、定期的に専門的知識・技能を手に入れる習慣ができています(例:専門雑誌の講読、教員への質問、専門的トレーニングなど)	16.8%	41.0%	44.6%	51.0%	64.1%	48.8%
	専門領域の中で自分の研究テーマ(追求したいテーマ)が定まっている	30.2%	43.1%	42.2%	49.9%	77.8%	51.2%
	自分の専門について、知らない人にわかりやすく説明ができる	13.9%	34.3%	42.4%	50.4%	66.4%	46.6%
	専門的知識や技術を使って、同じ専門の人とやりとりができる	12.8%	36.1%	42.2%	52.1%	62.1%	46.6%

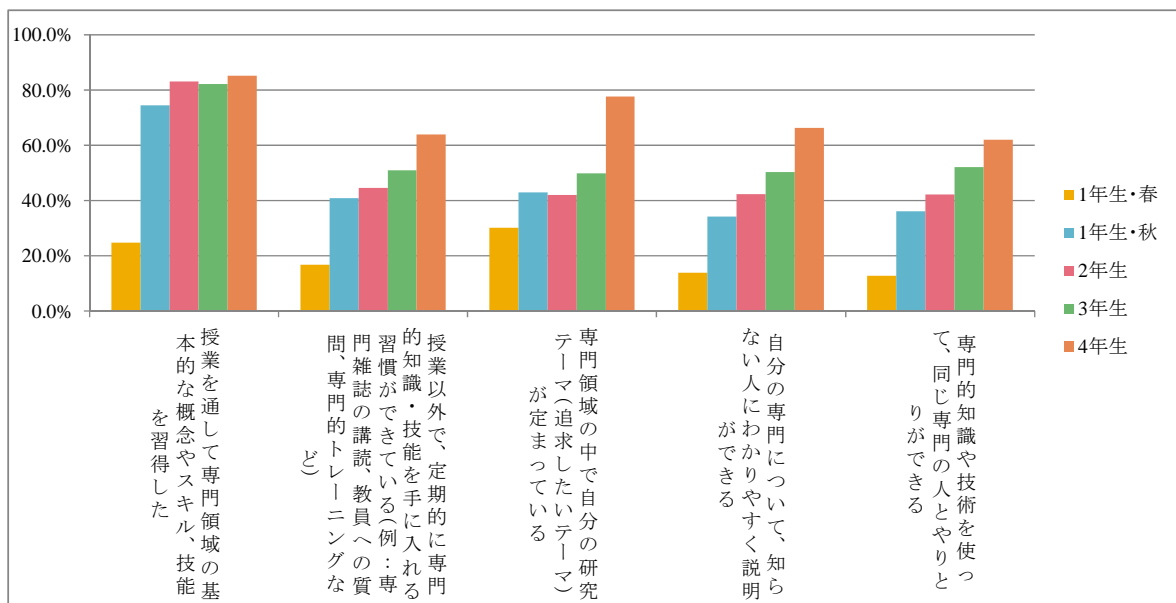


図2.2.2 専門知識・技術(考える力)の選択率(全学部生)

⑨論理的思考力

「他者との意見について、事実と意見の区別をしながら受け取ることができる」については、アンケート2(秋実施)の全学年を通して選択率が高く、80%以上であった。

表2.2.3 論理的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

考える力	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
	全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
⑨論理的思考力						
論理的であるかどうかという観点から物事を判断することができる	40.3%	74.0%	72.7%	75.7%	80.0%	75.2%
物事を分かりやすく順序立てて説明することができる	27.1%	57.3%	58.7%	59.3%	69.1%	60.3%
序論、本論、結論の流れで文章を書くことができる	28.9%	68.9%	70.2%	68.6%	72.5%	69.6%
自らが主張を行う際、その根拠として適切な客観的事実を示すことができる	33.0%	69.3%	69.5%	71.1%	75.3%	70.7%
他者の意見について、事実と意見の区別をしながら受け取ることができる	58.5%	81.4%	81.1%	80.1%	81.6%	80.8%

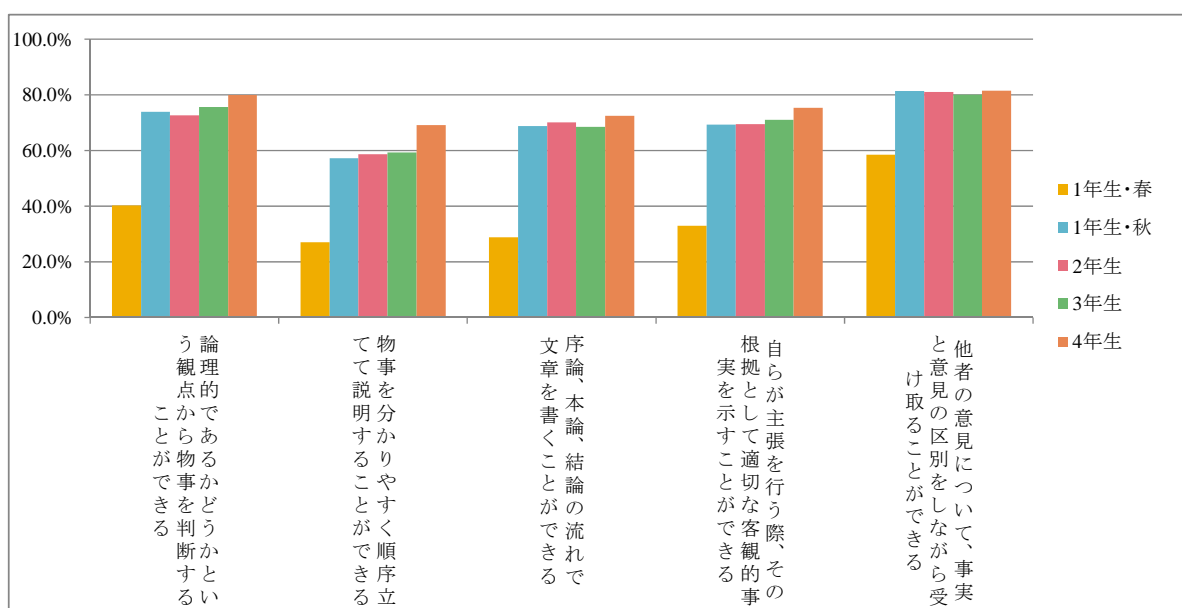


図2.2.3 論理的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

⑩批判的思考力

多くの項目について、アンケート 2（秋実施）の全学年を通して選択率が高かった。

表2.2.4 批判的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数
考える力	⑩批判的思考力	1,319件	1,304件	1,172件	1,120件	868件	4,487件
	思考をする際、その本質を捉えようと意識している	53.0%	81.0%	79.4%	80.4%	84.4%	81.1%
	自分が考えたことや思考過程について、それで良いのかを問うことができる	60.8%	85.0%	82.4%	81.7%	84.6%	83.2%
	他者の意見や議論の矛盾や盲点を発見することができる	40.8%	74.3%	71.9%	71.1%	76.3%	73.0%
	人の見かけや地位、これまでの実績のみによって、意見の善し悪しを判断しない	54.6%	82.1%	82.8%	79.6%	84.3%	81.9%
	多様な観点から考えの善し悪しを判断できる※	43.3%					

※項目設定上のトラブルにより今年度は調査が行われておりません（1年生春のアンケートでは実施）。

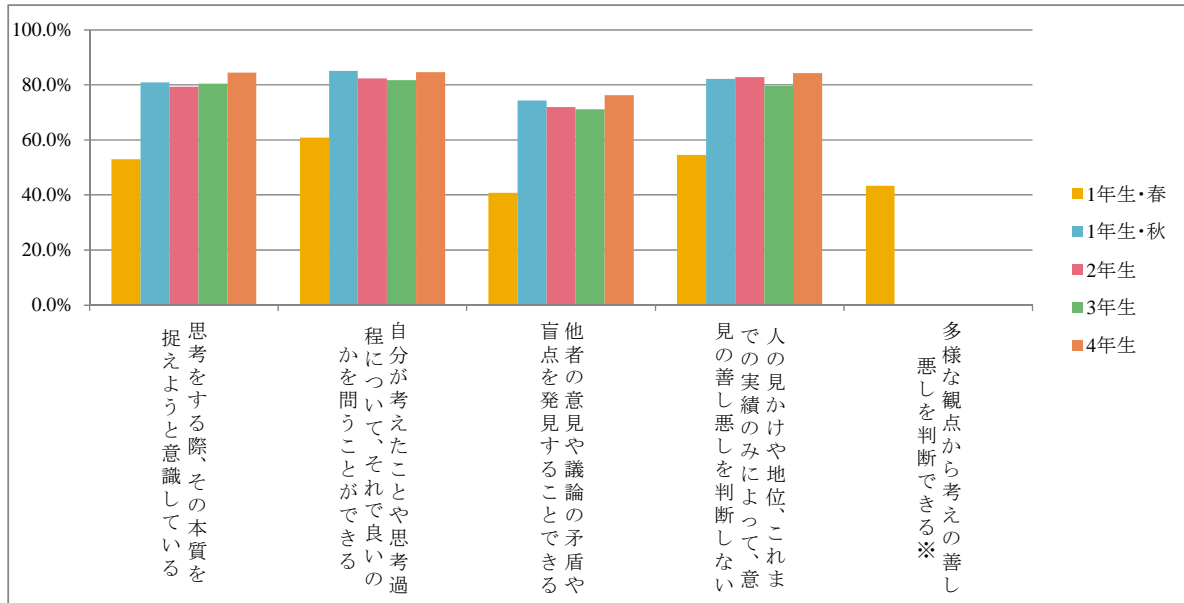


図2.2.4 批判的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

※項目設定上のトラブルにより今年度は調査が行われておりません（1年生春のアンケートでは実施）

⑪課題探求力

ほとんどの項目について、高学年ほど選択率が高かったが、「直面する複数の課題の優先順位をつけることができる」については、高学年ほど選択率が低かった。

表2.2.5 課題探求力(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数
考える力	⑪課題探求力	1,319件	1,304件	1,172件	1,120件	868件	4,487件
	答えのない問いを問い続けることができる	31.9%	52.4%	54.7%	56.0%	64.1%	56.1%
	今何をしないといけないかという、探求すべき課題をはっきりさせることができる	46.6%	73.3%	68.7%	71.0%	77.1%	72.1%
	直面する複数の課題の優先順位をつけることができる	56.2%	82.4%	79.3%	78.5%	78.2%	79.5%
	自ら課題を発見して、それを解決することができる	27.1%	64.3%	62.9%	68.1%	73.5%	66.4%
	様々なアイデアを整理して、探求可能な課題として設定することができる	23.3%	64.5%	61.7%	65.5%	72.6%	65.3%

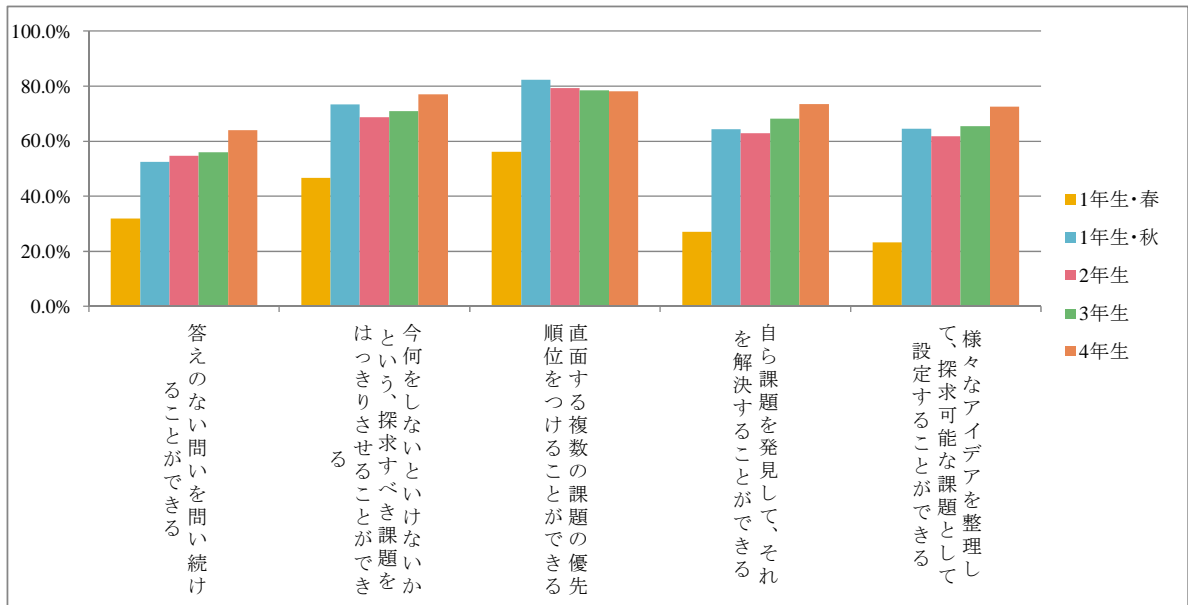


図2.2.5 課題探求力(考える力)の選択率(全学部生)

⑫問題解決力

「他者と協力しながら問題を解決することができる」は、アンケート2(秋実施)の全学年を通して選択率が高く、80%以上であった。

表2.2.6 問題解決力(考える力)の選択率(全学部生)

	1年生・春 全回答数 1,319件	1年生・秋 全回答数 1,304件	2年生 全回答数 1,172件	3年生 全回答数 1,120件	4年生 全回答数 868件	全学生 全回答数 4,487件
⑫問題解決力						
問題を解決するために創意・工夫を繰り返すことができる	44.0%	73.0%	73.7%	72.9%	77.9%	74.0%
問題解決のための「To Do リスト」を作ることができる	33.4%	62.4%	60.7%	63.8%	69.4%	63.5%
多様な解決方法の中から、状況や条件に適した方法を選択できる	40.0%	76.8%	72.8%	74.1%	78.0%	75.0%
問題解決に向けて実現可能な計画を立てることができる	34.8%	71.2%	69.5%	70.7%	73.3%	70.8%
他者と協力しながら問題を解決することができる	60.2%	87.1%	83.9%	80.6%	82.4%	83.4%

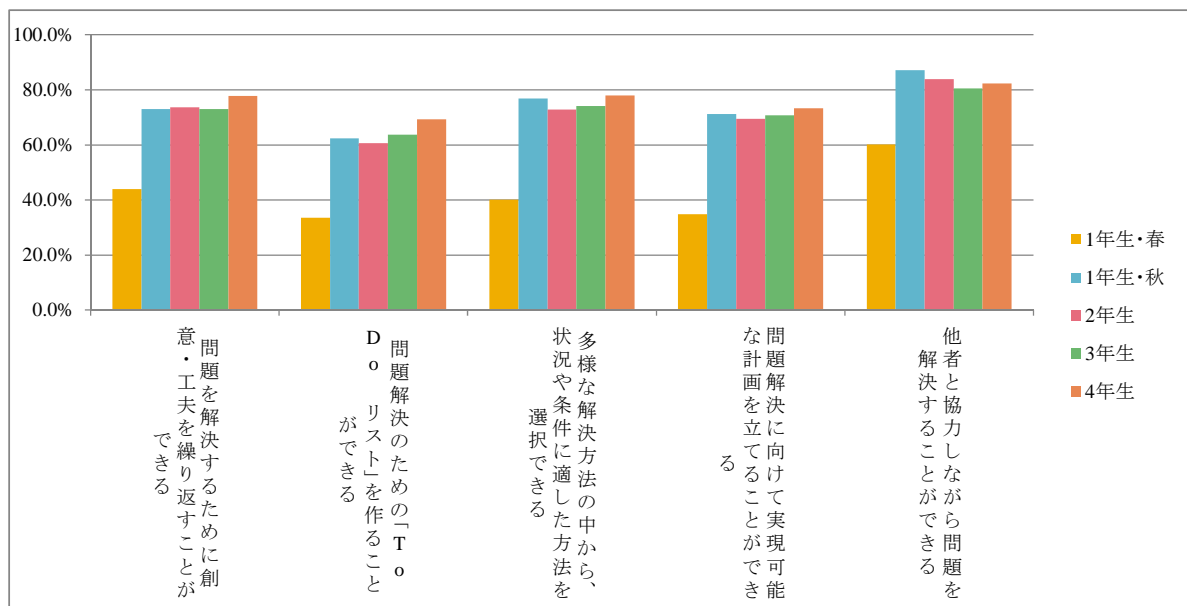


図2.2.6 問題解決力(考える力)の選択率(全学部生)



コミュニケーション力の下位概念 ⑬情報受発信力、⑭討論・対話力、⑮指導力・協調性、⑯社会人としての態度、⑰実践外国語力について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

⑬情報受発信力

「学会や研究会、発表会などで研究や学習の成果について発表を行った」や「自己アピールがうまくできる」については、選択率が低かった。しかし、どちらの項目も4年生の選択率は他の学年に比べると非常に高かった。

表2.3.1 情報受発信力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数
コミュニケーション力	⑬情報受発信力	1,319件	1,304件	1,172件	1,120件	868件	4,487件
	偏りがある情報の中から、適切な情報を選別することができる	41.5%	74.9%	73.4%	72.5%	74.3%	73.7%
	学会や研究会、発表会などで研究や学習の成果についての発表を行った	13.6%	46.9%	36.3%	39.9%	53.0%	43.5%
	図書館や文献検索システムを利用して、必要な情報を集めることができる	39.2%	83.1%	78.3%	77.0%	80.5%	79.5%
	情報を収集したり、自ら情報発信するためにインターネットの適切な使い方が分かっている	44.2%	82.4%	78.7%	79.8%	81.9%	80.5%
	自己アピールがうまくできる	17.3%	39.0%	37.5%	41.3%	54.0%	41.9%

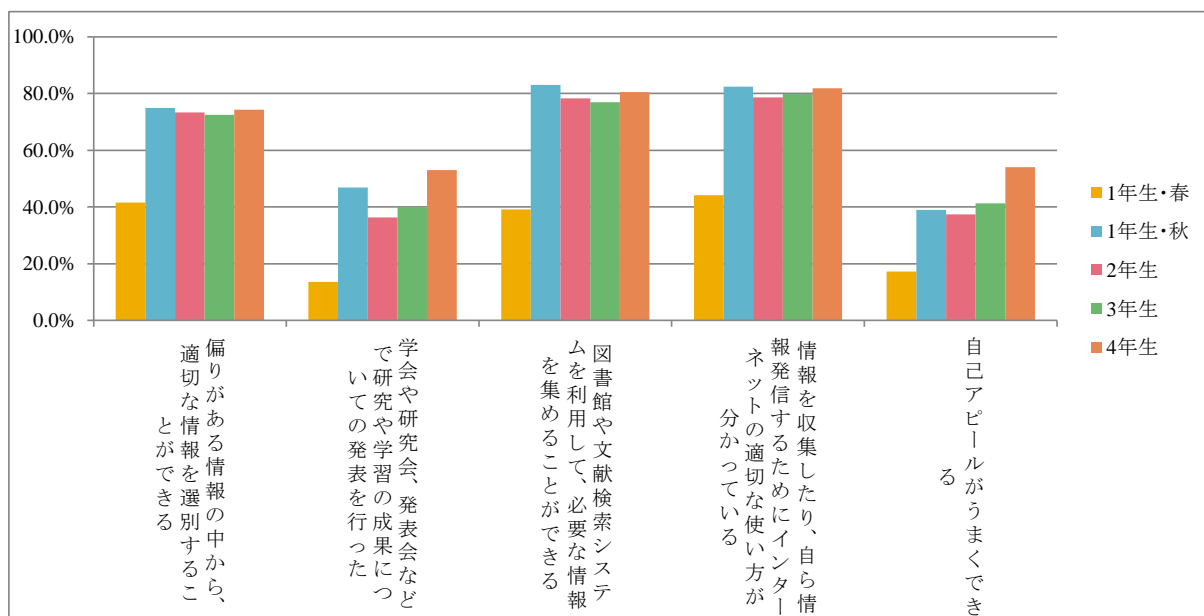


図2.3.1 情報受発信力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑭討論・対話力

「相手の話を最後まで聴く」は、アンケート2(秋実施)の全学年を通して選択率が高く、80%以上であった。他の項目では、1年生春の学生と1年生秋の学生の選択率の差が大きいが、この項目については、両者の差はあまり大きくはなかった。

表2.3.2 討論・対話力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数
コミュニケーション力	⑭討論・対話力	1,319件	1,304件	1,172件	1,120件	868件	4,487件
	自分の意見を説得力のある形で伝えることができる	25.5%	54.4%	54.5%	58.8%	63.5%	57.2%
	相手の話を最後まで聴く	73.3%	86.9%	86.4%	85.3%	86.4%	86.1%
	自分と異なる意見も尊重し、先入観なく最後まで理解した上で、自らの意見を伝えることができる	48.5%	75.5%	76.2%	76.6%	80.1%	76.7%
	相手が受け入れやすい形で自分の意見を伝えることができる	31.9%	68.6%	68.6%	67.3%	74.5%	69.2%
	議論が対立した場合でもその調整を行い、結論にたどり着くことができる	27.7%	69.3%	66.4%	69.4%	75.9%	69.5%

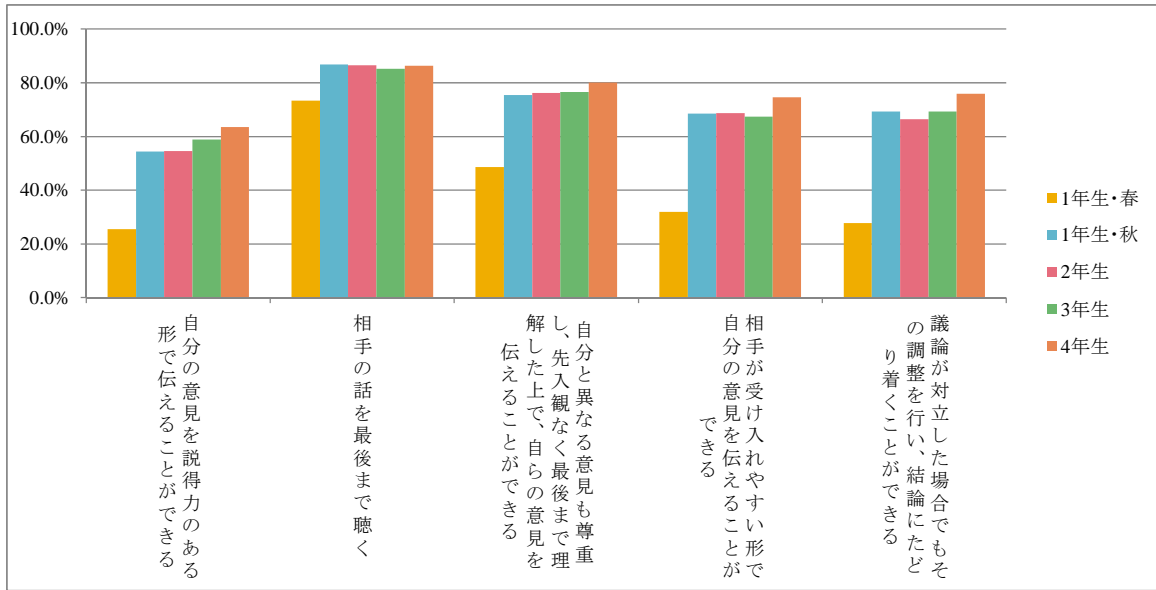


図2.3.2 討論・対話力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑮指導力・協調性

「自ら所属しているグループに貢献する行動を取れる」は、アンケート2(秋実施)の全学年を通して選択率が80%以上と高かった。一方、「成果目標を示して他人を巻き込む体験をした」は、選択率が低かった。

表2.3.3 指導力・協調性(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

	1年生・春 全回答数 1,319件	1年生・秋 全回答数 1,304件	2年生 全回答数 1,172件	3年生 全回答数 1,120件	4年生 全回答数 868件	全学生 全回答数 4,487件
⑮指導力・協調性						
自ら所属しているグループに貢献する行動を取れる	54.8%	84.4%	81.1%	82.0%	81.5%	82.2%
自分の考えに反することでもグループ全体にとってメリットがあることを優先する	56.2%	83.3%	82.3%	79.8%	82.6%	81.8%
初対面の人や気の合わない人、分野が違う人とも共通の目標に向けて協力しあうことができる	49.8%	76.7%	73.8%	75.8%	79.6%	76.0%
成果目標を示して他人を巻き込む体験をした	19.0%	49.7%	48.5%	53.0%	61.8%	52.4%
グループの活動が停滞したときに、メンバーに声をかけて前に進めることができる	29.8%	68.3%	63.3%	68.6%	71.8%	67.6%

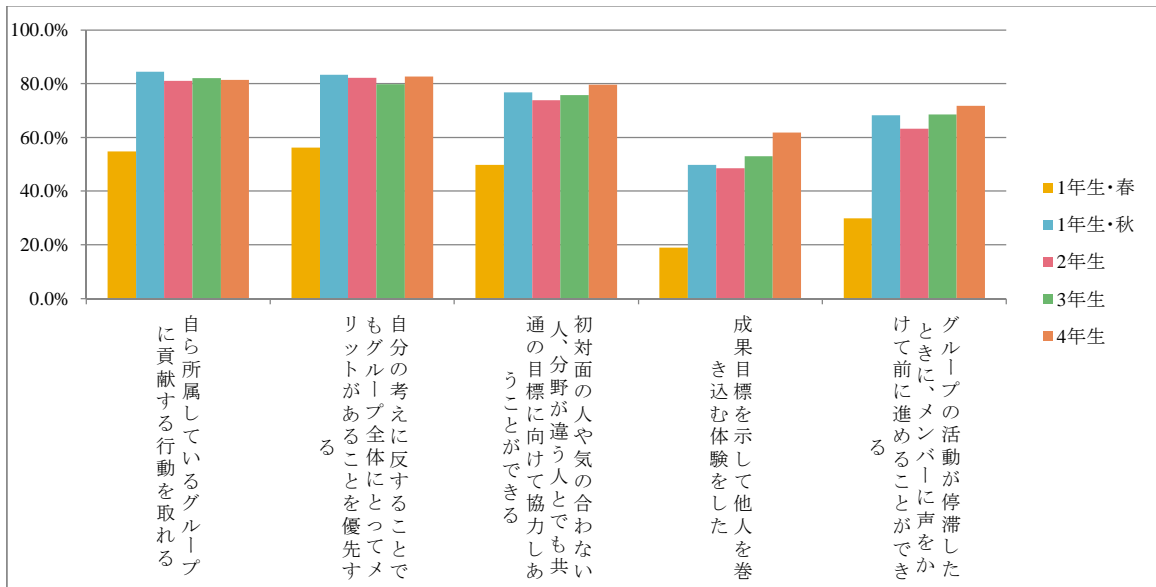


図2.3.4 指導力・協調性(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑩社会人としての態度

全項目について、アンケート2(秋実施)の全学年を通して選択率が高かった。そのほとんどは80%以上の選択率であった。

表2.3.4 社会人としての態度(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
コミュニケーション	⑩社会人としての態度						
	社会人としてのマナーを意識して行動することができる(例:挨拶、時間厳守、敬語、手紙やメールの作法、受講態度など)	67.1%	86.6%	86.5%	82.4%	83.8%	84.9%
	他人の助言に耳を傾けることができる	75.4%	91.9%	90.5%	88.3%	86.8%	89.4%
	与えられた任務を責任感と当事者意識を持って遂行することができる	50.4%	85.7%	85.4%	82.0%	86.4%	84.6%
	場や状況に応じて適切な振舞いをその都度考え、選択することができる	54.1%	86.4%	84.8%	82.9%	84.3%	84.5%
	三重大大学という集団の一員として見られていることを意識して行動できている	43.3%	76.0%	73.5%	74.0%	75.2%	74.5%

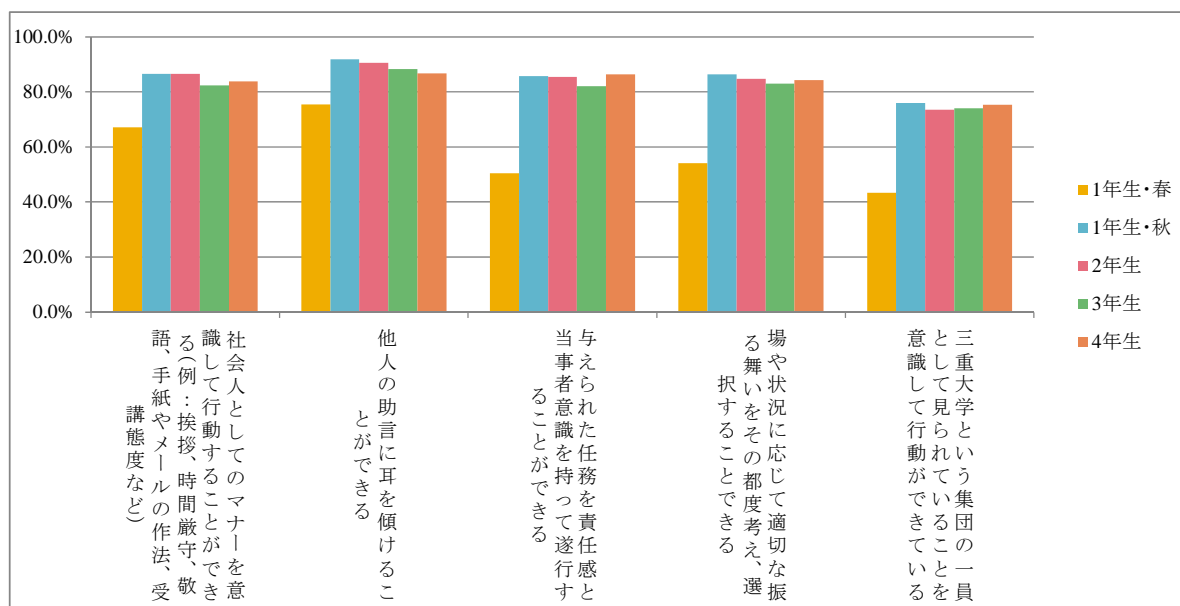


図2.3.4 社会人としての態度(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑪実践外国語力

全体的にどの項目も選択率が低かった。その中では、4年生の選択率は高く、特に「外国語で表現された専門分野に関わる必要な情報を手に入れることができる」については、他の学年よりも4年生の選択率が大きかった。

表2.3.5 実践外国語力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,319件	全回答数 1,304件	全回答数 1,172件	全回答数 1,120件	全回答数 868件	全回答数 4,487件
コミュニケーション	⑪実践外国語力						
	外国語で表現された専門分野に関わる必要な情報を手に入れることができる	12.4%	36.7%	36.0%	40.4%	52.6%	40.6%
	外国語で表現された一般的な情報を手に入れることができる	29.6%	54.6%	49.8%	50.5%	55.2%	52.4%
	外国語で日常生活に関する会話をすることができる	12.7%	35.4%	35.8%	32.9%	38.8%	35.5%
	TOEICで600点以上である	5.8%	20.9%	26.3%	26.8%	33.4%	26.3%
	外国語だけで話す生活体験を1日以上している	7.6%	18.3%	22.4%	23.0%	29.1%	22.7%

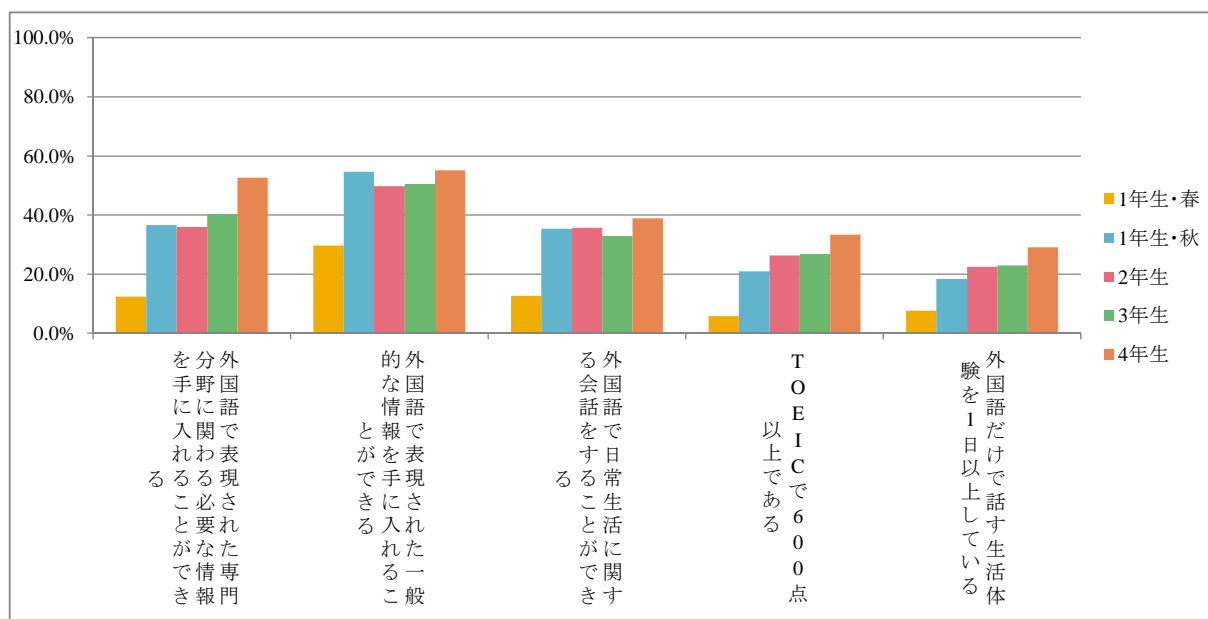


図2.3.5 実践外国語力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

3. まとめ

全体を通して、選択率が高い項目、低い項目どちらも見られた。今回得られた結果をもとに、特に選択率が低かった項目については、選択率が上がるよう大学教育に反映し、改善を続けていく必要がある。また、どの項目も1年生春の時点は選択率が低かったが、1年生秋の時点になると選択率が高かった。1年生秋のデータは前期直後の回答であるが、大学教育を経験したことによって、選択率が高まった可能性が考えられる。ただし、両時点の回答者は完全に同一ではないため、解釈には注意が必要である。

アンケート項目について

修学達成度評価（4つの力に関するアンケート）は、平成27年度に項目改訂に向けて教育会議や全学FDなどを通じて検討を重ね、新項目を決定しました。このアンケート項目は平成28年度アンケートから使用しています。項目改訂の経緯は平成27年度教育会議資料や議事録等を参照ください（第7回教育会議～第9回教育会議）。